

I 大学入試について

① 前提

- ・学生には求める大学を選ぶ自由があり、大学には求める学生を選ぶ自由がある
- ・学生、大学双方にとって選択の自由は、競争環境を作り出し、学生、大学の格差を生む

② 大学入学試験の意義

- ・大学に入学するための試験
- ・入学に際して大学が求める要件や力をクリアしているかどうかを見極める試験

↓

- ・大学を卒業したらどのような人材になるのかについて、現状とめざすビジョン等を明確かつ具体的に示す
- ・受験に際して求める学生の要件を明確にし、作問する
- ・受験に際して公平な受験機会を提供する
- ・合否判定に際して公正に採点する

③ 大学入学共通テスト(大学入試センター試験)の役割

- ・共通一次学力試験がルーツであり、一次試験として活用することが原則
- ・二次試験の足切りに利用し、入試制度を補完する

↓

- ・大学個別の(二次)試験を実施することを前提に活用する

II 高校生の現状について(肌感覚として)

① 高校入学以前

- ・義務教育ではないにも関わらず、高校進学率は98.8%
- ・中卒で働いても、経済的に自活できない(それ以前に働き口が少ない)
- ・中卒者の選択肢がほとんどない(とりあえず高校へ：単線型教育制度の弊害)
- ・高校に進学した生徒のどれ位が、高校進学レベルの学力を有しているのか？
- ・高校に進学した生徒のどれ位が、勉強やスポーツ・文化・芸術活動をしたいのか？

↓

- ・高校に進学する段階で、既に学力格差は広がっている
- ・高校入試改革こそ必要(中等教育の一体化＝中高接続改革？)

② 高校卒業以降

- ・大学に進学しようとする生徒のどれ位が、大学進学レベルの学力を有しているのか？
(なぜ、分数計算のできない大学生が存在するのか？)
- ・大学に進学しようとする生徒のどれ位が、勉強やスポーツや文化・芸術活動をしたいのか？

- ・大学を卒業した学生のどれ位が、一般的な社会人として活動できているのか？

↓

- ・すべての高校生にとって高大接続改革の効果は期待できない
- ・高校の卒業要件(履修すべき内容)を厳格に適用する = 現行の高卒認定試験を見直し
大学入学共通テストの代替とし活用

III 英語(入試)について

① 英語の必要性

- ・日本は言語レベルが高いため、大概の洋書は国語に翻訳され出版される(翻訳天国)
- ・社会において、英語が使えず支障をきたす人はどれ位いるのか？
- ・社会において、英語で会議(意思疎通)をしなければならない企業はどれ位あるのか？
- ・大学に進学するにあたり、英語で話すことは必須の要件なのか？

↓

- ・英語で話すことは必要になってから学べばいい(ポケトークの活用もあり)
- ・幼少期から学校教育以外で英語に触れる環境を整える(テレビの英語番組の垂れ流し)
ex. フィンランドではほとんどの国民が英語を話す、これは貿易で生きていくしかない
ので英語を身につけている。国家として必要に迫られている故、国民が英語を話す。
したがって、テレビ番組も英語のものが多数放送され、生活の中に英語を散りばめている。
- ・英語で聞くことや話すことが入学要件として必要ならば、大学個別の(二次)試験で実施する

② 外国語教育

- ・国語を十分に駆使できないのに、日本で生活する上で外国語を変換できない
- ・国語を持つ日本人にとって、外国語を習得することは国語との変換を可能にすること

↓

- ・外国語を学ぶための基盤として、十分な国語力を身につけることの方が先

IV 記述式(入試)について

記述式解答の課題

- ・採点者により採点基準が主観的となるため、公正さや公平さを求めることが難しい
- ・採点基準を明確にできる問題は、解答も画一的になりやすい

↓

- ・記述式解答を求める問題は、大学個別の(二次)試験で実施する
- ・記述式解答を求める問題は、大学の責任において大学の主観により採点する

V 検討事項への結論

① 英語 4 技能評価のあり方

英語の 4 技能はコミュニケーション能力の必須要素であり、英語を必要とする人にとっては身につけるべき技能であるが、現状、大学入試センター試験を受ける生徒すべてが英語と必要とする進路を選択することはない。

したがって、大学入学共通テストにおいて「聞く」「書く」「話す」の 3 技能を問う必要はなく、「読む」の基本技能だけで充分である。大学が入学要件として求めるのであれば、個別の二次試験において「聞く」「書く」「話す」の 3 技能を問うべきである。

② 記述式出題のあり方

記述式出題は文章などの記述による表現力を問うものであり、社会において求められる重要なスキルである。しかし、それを試験で問う場合には採点の公正性や公平性を確保することに課題があり、加えて、採点基準を明確にすればするほど画一的な出題内容となる懸念がある。

したがって、大学入学共通テストにおいて記述式出題を問う必要はなく、高速かつ正確な機械的採点処理方式(従来ではマークシート方式)だけで充分である。大学が入学要件として求めるのであれば、個別の二次試験において記述式出題を問うべきである。

③ 経済的な状況や居住地域、障害の有無等にかかわらず、安心して試験を受けられる配慮

現状、大学入試センター試験で問題がないのであるから、外部業者ならびに民間試験等を活用せずに、これまで通り大学入試センターが大学入学共通テストを実施すべきである。

なお、大学個別の(二次)試験においては、大学の責任において配慮すべきである。

④ その他大学入試の望ましいあり方

大学入試は文字通り大学に入学するための試験であり、入学に際して大学が求める要件や力をクリアしているかどうかを見極められれば、これが望ましいあり方である。

ところが、大学が求める要件を満足できているのであれば、大学ならびに卒業生は社会から大いに評価されるべきではあるが、現状は大卒者としての世間の期待を満足しているわけではない。これは取りも直さず、そのような人材を卒業させる大学が存在していること自体が問題なのだが、4 年間で期待通りの教育をすることが可能なレベルではない学生を入学させていることにも問題がある。ここに望ましい大学入試、ひいては望ましい大学の存在意義を考える重要なポイントがある。

戦前の複線型教育制度における大学と敗戦後の単線型教育制度における大学とは本来違う役割を担わなければならないのだが、そのために大学入試制度を変えるところまでには至らず、単線型の理想である大学全入の時代を迎えていることに現在の大学入試のひずみがある。単線型は小、中、高、大と一気通貫で教育しようとする制度で、義務教育終了後の進路の選択肢が非常に少ないことが特徴である。したがって、学力格差が小から中へ、中から高へ、高から大へと先送りされる弊害が起きている。これは、複線型の大学に求められた学力という指標が、学力以外の力も育まなければならない単線型の大学にそのまま適用されたことによるものであ

る。それらの力を包含して人間力と呼ぶとするなら、まさに人間力を育むことが単線型の大学に期待されている使命ではないだろうか。社会が期待する大卒者への成果は学力ではなく人間力であり、単線型の弊害として注目されている学力格差の先送りとは、その元をたどれば人間力格差に起因しているのだ。

この根本原因を解決せずして大学入試を議論することは不毛に近く、中央教育審議会において小手先の改革に終始してしまうこととなる。余談だが、中教審の委員の方々は自身の経験に基づいてある意味好き勝手なことを発言されるが、それが正しいという保証はどこにもない。その方がある分野である成功やある結果を出されたことは事実であるが、違う分野でそれが適用できる保証はどこにもないのであるから、事務方を務める文部科学省がしっかりグリップを利かせ、委員の発言について確実に裏付けをとりその発言内容について責任を取ることができるかどうかも含めて、取捨選択の精度を上げることが求められるのではないだろうか。

以上を踏まえ、望ましい大学入試に至るポイントを以下にまとめるが、要は小、中では単線型で学力、体力、徳力を身につけさせ、見極め、高では複線型にして就職への選択肢を広げることになれば、自ずと大学へ進学する生徒が絞られ、大学の裁量において望ましい入試を実施できるようになる、ということである。

小学校において

- ・学ぶ楽しさを経験させる
- ・学習や運動の習慣を身につけさせることで自制心を育む
- ・基礎学力(読み、書き、計算)を徹底的に身につけさせる
- ・情操教育を重視する
- ・英語など学ばせる必要なし(総務省主導で英語圏の国々の TV 番組をそのまま垂れ流す)

中学校において

- ・基礎学力の上に 5 教科を身につけさせる
- ・引き続き学習や運動の習慣を身につけさせる
- ・引き続き情操教育を重視する
- ・卒業時点で進学か就職を選択できるようにし、就職しても自活できる制度をつくる
- ・卒業時点で高校での学習に不安がある生徒は就職させる

高校において

- ・職業高校にデュアルシステムを導入し、中卒で働く人を支援する
- ・普通科と職業科のみを設置する
- ・高校選択時に偏差値でランク付けする場合は普通科のみを対象にする
- ・ボランティア活動への参加を奨励する
- ・中学校における履修内容を習得するまで補修授業をする
- ・高校における履修内容を習得するまで卒業させない
- ・卒業に当たり大学受験資格認定試験(共通テストの代替)を実施し、不合格者には大学受験資格を与えない
- ・卒業ならびに中途退学し就職する生徒が、自活できるマイスターのような制度をつくる

大学において

- ・大学入学共通テストを大学受験資格認定試験とし、合格者のみ個別試験を受験させる
- ・4 年後どのような人材になれるのか明確かつ具体的に示す(大学の差別化、淘汰)

- ・大学独自の試験を実施する

以上